

わたしは何のためにろう史を学ぶのか

～その基礎知識をふまえて～

1、はじめに

ろう史を初めて学ぶ方々を対象→専門的な話より基本的な話を中心に。

何のためにろう史を学ぶのか→各人各様のテーマの中で、わたしのテーマを示したい。

進め方として、クイズ方式でみなさんとともに考えたい。

2、手話はいつから始まったのだろう

手話の定義を歴史から考える理由→伊藤政雄氏の定義を深める。

クイズ選択肢例 【A】旧石器時代 【B】室町時代 【C】明治時代

結論：ろう者集団の発生が手話を生んだのではないか。

課題：ろう者集団は明治時代からなのか。

3、口話教育はいつから始まったのだろう

口話の教育を歴史検証する→「主義」が問題。口話教育≠口話主義教育

クイズ選択肢例 【A】京都府立盲聾院 【B】大阪市立聾学校 【C】滋賀聾話学校

結論：口話教育は聾教育の開始とともに生まれた「教育」の方法。

課題：なぜ「主義」が生まれたのか。

4、歴史上のろう者について

吉田松陰に関わった3人のろう者たちの写真揭示

→障害程度や環境の違いをふまえて、ろう史の研究対象について考える

クイズ選択肢例 【A】谷三山 【B】杉敏三郎 【C】宇都宮黙霖

結論：先輩の活躍を初めて知るサプライズとそこから生まれる誇り。ろう史はデフ・アイデンティティに資する役割があって、我々の自信と生き方の目標にもなることもあった。

課題：国際障害者年行動計画が示した障害の定義→「特別なニーズを持つ特別な集団」ではなく「通常のニーズを満たすのに特別な困難を持つ普通の市民」を、ろう史の研究の立場でどのように読み解くか。

新たな目標…「人間的自立」→従来への身辺的自立、経済的自立、社会的自立との違い

5、おわりに

わたしにとって「ろう史」を学ぶ意味→例・情報提供施設設立の取り組み。

ろう史のテーマ例→「発掘型歴史学」「語り部型歴史学」「理論型歴史学」「実践型歴史学」等
ろう児者の福祉の実現のために、歴史を参考にする「実践型歴史学」…わたしのテーマ。

① 生き生きとした直感→②収集・考察・推理→③実践的検証→①へ（繰り返す）

参考文献：伊藤政雄『歴史の中のろうあ者』近代出版、山本おさむ『わが指のオーケストラ』秋田書店
渡邊平之輔編『古河氏盲聾教育法』文部省、大泉博『障害者福祉実践論』ミネルヴァ書房等

7月24日14:30～
於 コミュニティ嵯峨野

わたしは何のために ろう史を学ぶのか

～その基礎知識をふまえて～

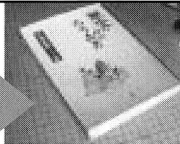
発表者 鈴木博司



はじめに

講座の目標

基本テキスト
伊藤政雄著
歴史の中のろうあ者



ろう史を初めて学ぶ方々を対象

→専門的な話より基本的な話を中心に

何のためにろう史を学ぶのか

→各人各様のテーマ、わたしのテーマ

まず、ろう史クイズからGo!



【手話の始まりは いつからだろう】

手話が始まったのはどの時代？

- () 旧石器時代
- () 室町時代
- (○) 明治時代

このクイズ出題の意図

何をもって手話と言うか

手話の定義を歴史から考える

伊藤政雄氏の手話の定義

「ろう者の集団と共に始まった」

(1) なぜ明治時代か？

(2) 本当に明治時代から？



旧石器時代

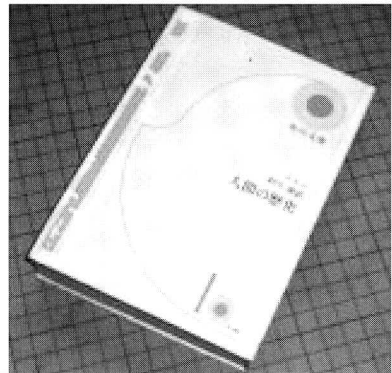
発声機能未分化説

イリン『人間の歴史』

手や身体で伝え合った



イリン『人間の歴史』角川文庫108頁



聾座頭要旨

あらすじ

→障害が正反対にある人同士の争い。

当時の願い

→お互いを補い合えばうまくいったのに。

当時のろう者のとらえ方。

→「読唇法」とその読みまちがい、歌も歌える等

- ①「聾座頭」は『狂言全集 中巻 続狂言記五十番』掲載（明治36年東京博文館発行）校訂者は幸田露伴。
- ②江戸時代の狂言流派は、多くの小グループが統廃合して三大家元が生まれた。家格順に鶯流、大蔵流、和泉流。
- ③「聾座頭」は和泉流の演目。他に大蔵流がろう者を主人公にした狂言を演じている。その演目が『不聞座頭』。
- ④ろう者を太郎冠者にした狂言は、複数のものがある。



室町時代

「狂言」に登場するろう者
タイトル『聾座頭』
盲の役と聾の役のかけあい

しかし

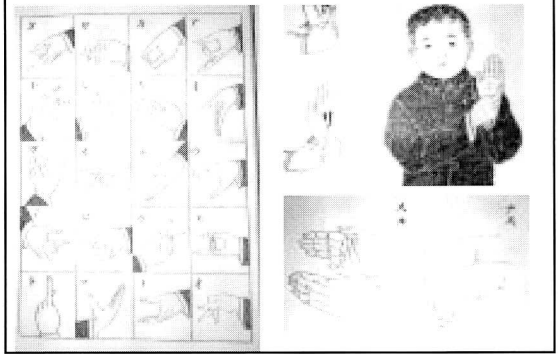
狂言で使われた身振りは手話か？
一般人にわかるしぐさであった。



明治時代

本邦初の公立聾学校
京都府立盲啞院
古河太四郎先生の手勢法

渡邊平之輔編 『古河氏盲啞教育法』文部省 大正2年



明治時代

本邦初の公立聾学校
京都府立盲啞院
古河太四郎先生の手勢法

しかし

古河先生の手勢法は手話か？



伊藤政雄先生『歴史の中のろうあ者』

手勢法は教育のための方法

（手話とは別なものとする）

手話が発生する条件

①生徒や卒業生等ろう者が同じ場所にいる
②ろう者同士で見える言葉としてダイナミックに交わされている。

③(学校で習った手勢法、指文字、口話から吸収しつつ)ろう者間で増強、変化、発展させられている
以上の条件で、手話が発生したと考える。

結論：生徒集団や同窓会が生まれた事に
着目して手話の始まりを明治時代とした

ろう者集団は明治時代からか？

最近のろう史
学会のうごき

- 1、江戸時代の寺子屋の報告
- 2、会員間の情報交換
(1)米国の「ろう島」同様な条件がわが国にも起きた可能性
(2)明治10年に文部省報告『待賢瘡聾生教授手順概略』(すでに手勢で会話をしている「聾ノ互談スル所」から学び、教育に取り入れるべき)

明治時代以前の「ろう者集団」の可能性がある。
ろう者を引き寄せた新たな「磁場」を発掘する課題。



まとめ①

伊藤政雄氏の手話の定義

「ろう者の集団と共に始まった」

- (1) なぜ明治時代か？
聾学校がろう者の磁場であった
- (2) 本当に明治時代から？
聾学校以前の磁場の可能性想定



【口話教育はいつから始まったのだろう】

口話教育を初めて実施した聾学校は？

- (○) 京都府立盲聾院 <明治11年>
() 大阪市立聾学校 <明治33年>
() 滋賀ろう話学校 <昭和3年>

このクイズ出題の意図 言語教育の歴史的検証

- 1、口話主義教育 ≠ 口話教育
- 2、ろう者観の変遷

伊藤政雄氏の口話教育の定義

「近代国家の強化は言語統一から」

- (1) 本当に京都府立盲聾院から？
- (2) 今なぜ「ろう者観」が問題か？



正解は・・・ 京都府立盲聾院

古河太四郎先生は教育目的で手勢法の他に、発音法、口話法など教育方法を工夫。発音、口形、舌の使い方など伊藤政雄氏によると当時楽善会訓盲院同様、ミラノ会議の情報はまだ来ていなかった。その特徴は

- ① ろう者の実態から出発した教育方法
- ② 聾教育の二大目標
ろう児に日本語を習得させる。
ろう児に職業技術を習得させる。



『古河氏盲聾教育法』文部省 大正2年



大阪市立聾学校の場合

昭和8年(国連脱退・軍国主義化の中)
 文部省の口話主義教育の方針
 大阪市立聾学校の高橋潔校長の反論
 聾児の実態に応じて口話教育も手話
 法も使いわけるORA法(適正教育)を
 主張した。
 全国の聾学校が文部省方針に変更す
 る中で、高橋校長は手話法を守りぬく。
 参照：山本おさむ『わが指のオーケストラ』



滋賀聾話学校の場合

西川吉之助
 最愛の娘、西川はま子が聴覚障害
 京都盲啞院の口話教育……**失望**
 大阪市立聾学校の口話教育……

自費で厳しい口話主義教育を娘に。

論説「二兎
 を追う者」

手話を使うと口話がおちる
 手話を厳しく禁じる
 ろう者との接触を厳しく禁じる

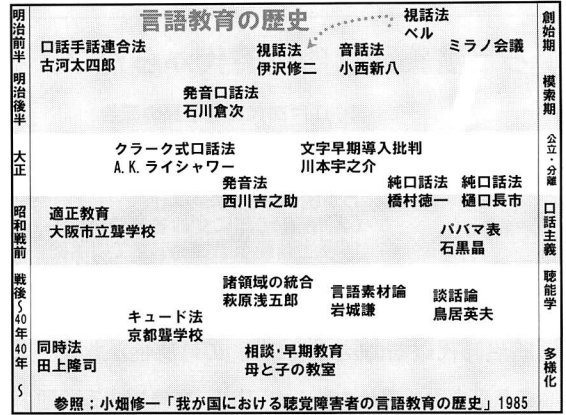


滋賀聾話学校の場合

西川吉之助
 最愛の娘、西川はま子が聴覚障害
 京都盲啞院の口話教育……**失望**
 大阪市立聾学校の口話教育……

大正時代に登場したラジオ。その電波
 によって、聾児西川はま子の美しい発
 音が全国に流れる。

全国の聾学校に口話主義教育の影響



言語教育の変遷を検討すると

- ① 効率成果主義・教師中心主義・音声社会主義
- ② 国家・マスコミの要請に迎合する教育へ
- ③ 上記①②を克服し本人中心の言語教育へ

→言語教育そのものの変化発展がわかる

石川倉次の「尋常科二関スル啞生ノ希望」から

- 第一「二通意術ヲ授ケ玉ヘ、次ニ自活ノ方ヲ教ヘ玉ヘ」
- 第二「常人ノ談話文章ヲ誤リナク知ルノ方ヲ教ヘ玉ヘ」
- 第三「我等ノ思想ヲ誤リナク常人ニ通ズルノ方ヲ我等ニ教ヘ玉ヘ」
- 第四「我等自身ニテ知り得ル事物ヲバ教ヘ玉フナ」
- 第五「我等自身ニテ知ララルル様其方便ヲ授ケ玉ヘ」

→ろう者の希望を出発点とした最初の記録

西川はま子のこと→口話と手話の間にゆれうごく悩み



ろう教育科学会『西川はま子集』51頁

ろう教育科学モグラフィNo. 4 1964年

普通人と同じようにやりたい、普通人と同じようにやりたいと思うなら、口話でなければだめだということは、今では常識のようにになっており異論を容れることの不可能であることは私達もよく知っている。

だが、私達は東して現在口話でやっている以上、それでよいのかと考えさせられるのである、それは、自分自身で、ろう者であることをはっきり認めているがために、口話を身につけて居りながら、やはり心の中には限り切れない、あるものがあることをいひたいはならない、そのあるものというのが一体何であるか、誤謬としておかない、併し、それが私達の心の中に不安定な存在として、はっきりと定まっていることが私達の一苦悩なところではないだろうか。

ハンディキャップを背負った者として、一生此處に居られないものであるろうか。

(日付不明・メモより)

はま子の不安を考える

口話教育は聾教育の方法の一つである
しかし、口話教育の多くが

手話は口話の妨げになる

社会では口話が必須だから
本人の不在 (親の気持ち
教師の気持ち

子の幸せの
ために心を
鬼にして...

口話主義教育は
「ろう児が社会で立派に自立
これがはま子の自我の危機で、
口話教育はろう児本人の意思が必要。

私はろう者なの
が、普通の人に
近づきたいのが



口話「主義」について考える

- ①主義の定義は、人、団体や政府が主張や行動の指針にする原則や思想。「主義」は中国の史記にも出現「信じている一定の主張」の意味。明治前期に英語「principle」の訳語として定着し、その後英語「～ism」の訳語としても使われる。(Wikipediaから筆者要約)
 - ② XとYの力関係で、これまでのXの支配に対して、後で逆転したYがその反動としてXを抑えつける現象。
 - ③ある県聴障協会会長さんの悩み
→中途失聴者の手話はシムコム。
 - ④某大学教授「ろう文化とろう文化は違う」
→「主義よりも事実をとりあげてほしい」
- 主義はひとつの現象として分析される。



まとめ②

伊藤政雄氏の口話教育の定義

「近代国家の強化は言語統一から」とおり、
社会と言語教育とろう者の関係を見ていく。

(1) 本当に京都府立盲啞院から？

口話教育はヒューマンイズムから始まった。

ミラノ会議の情報から口話主義教育へ。

(2) なぜ「ろう者観」が問題か？

言語教育はろう児観が問われ、その延長にろう者観。口話主義教育は当時のろう者観を立証する。



右の絵は、幕末に登場した有名な吉田松陰です。
吉田松陰は、長州藩(山口県)の軍学師範で、
江戸幕府を倒した桂小五郎や山県有朋、伊藤博文
初代総理大臣を教え、明治の日本の基礎を作
りました。
その吉田松陰に関わった聴覚障害者が3人います。



私は、江戸時代、奈良県橿原市に生まれました。職業は儒学者です。吉田君が名付けた頃に、いろいろ天皇のことを聞かれたので、日本の成り立ちについて話したことがあります。



私は、吉田君と同じ長州出身で徳島じやが、幕府について彼の考え方と違っていて意見をぶつけあつてきたんじや。意見をやりとりした手紙は、今でも大切にしまつておる。



私は、吉田松陰の実弟です。兄は貴子に行つたので私と苗字がちがいます。兄は忙しい中、いつも私を心配してくれました。

- ①わたしはだれでしょう
- ②どんなことをしましたか



【人物解答】

①谷 三山(たに さんざん)

②1802年、奈良県橿原市に生まれる。11歳の時、眼、耳を同時にわづらい、聴力を失ったが、勉学に励み、私塾(興讓館)を開き、その学識は地方にまで著しくきこえ、中でも、頼山陽、吉田松陰ら多くの人々と親交があった。

三山先生は、幕末の動乱期にあり、橿原市の生んだ一大儒学者である。
(旧高市郡教育博物館前の案内板より)



【人物解答】

①杉 敏三郎(すぎ としさぶろう)

②吉田松陰の末弟。

生来のろう者

幼少時から読書を好み口を動かして話をしたりした。また、書字に長けていた。兄の松陰とは何度も会っている。

死ぬ7、8年前から自分の聾啞である事に悩んだようで他家との交際を一切絶つ。明治9年、急病で32歳の生涯を終える。

『言わぬ花 日本聾啞秘史』より



【人物解答】

①宇都宮 黙霖(うつのみやもくりん)

②1824年に生まれる。20歳の頃、大病を患い、耳が聞こえなくなり、その後はすべて筆談を用いる。22歳の夏に得度して、「黙霖」を称す。

国学研究によって勤皇論を唱え始め、40余国をわたり識見をひろめ、多くの漢学者・国学者と出会う。

明治30年死去。73歳

『言わぬ花 日本聾啞秘史』より



①谷 三山
②10歳失聴 儒学者



①杉 敏三郎
②吉田松陰の末弟、
生来のろう者、読書、
書字に長じる



①宇都宮 黙霖
②20歳失聴 国学研究

正解は・・・

このクイズ出題の意図 「ろう者の誇り」を研究対象に

伊藤政雄氏のろう史観の基本

「どんな時代のろう者であれ、集団の中で孤立していてもろう者の眼で社会をみていた。その同じ眼をもつろう者によるろう史を」

1、そんなに活躍した先輩がいたのか！

～熱くなる胸の思い～が果たす役割

2、三人のろう者は「特別な人々」か

～国際障害者年行動計画～をフィルターにかけて



三人の特徴を整理する

先天性のろう者は杉さん、

残りの二人は、11歳、20歳で失聴

三人の共通点は・・・

恵まれた知的・経済的環境

三人の違い・・・

個人と環境の関係

1980年 国際障害者年行動計画でいう「個人と環境の関係」を読み解く



・ 国際障害者年行動計画 A-No.63より引用

- ・ 障害という問題がある個人とその環境との関係としてとらえることがずっとより建設的な解決の方法であるということは、最近ますます明確になりつつある。
- ・ 社会は、今なお身体的・精神的能力を完全に備えた人々のみの要求を満たすことを概して行っている。
- ・ 社会は、全ての人々のニーズに適切に、最善に対応するためには今なお学ばねばならないのである。
- ・ これは単に障害者のみならず、社会全体にとっても利益となるものである。
- ・ ある社会がその構成員のいくらかの人々を閉め出すような場合、それは弱くもろい社会なのである。
- ・ 障害者は、その社会の他の異なったニーズを持つ特別な人々と考えられるべきではなく、その通常の人間的なニーズを満たすのに特別な困難を持つ普通の市民と考えられるべきなのである。

ろう史研究の対象を考える

先天性のろう者の杉さんと中途失聴の二人を考えながら 次の問題。

- (○)彼は特別な困難をもつ普通の市民か
- (○)彼は他と異なったニーズをもつ特別な市民か

Twitter

健聴者でない「ろう文化」を持っているから、「特別な市民」と答えるべきか。先輩を誇らしく思うこの熱い胸は「ろう者は特別な市民」と答えたい。だが、ろう者の家族や職場での生活事実から、「普通の市民」でもあるはずだ。手話通訳のニーズはろう者だけではなく病院側とか企業側にとっても必要である昔の時代のろう者を、今の時代の論理にムリヤリ型はめしていいのか？ その時代にはその時代のろう者の性格があり現代のろう者には現代の論理で解く

いままでの障害者はどのように考えられてきたのか



飛鳥	障害者概念の発展		保護対象
江戶	恵田院 聖徳太子	大宝律令 残疾病	扶助対象
明治大正		嚔乞食	盲人授産施設
	恤教規則 無告の民	西洋事情 福沢諭吉 盲聾児教育施設	
昭和戦前	公立特殊教育	滝野川学園 精神障害者福祉	社会事業
	国家主義教育		更生事業
戦後 50年 50年 50年 平成	障害者運動	この子らを世の光に 近江学園・糸賀一夫	社会福祉
	重度障害者施設	養護学校義務制	完全参加と平等 国際障害者年
	ノーマライゼーション	特別支援学校 特殊から転換	米国自立生活運動 ADA法
	インクルーシブ	自立支援法	共生自立



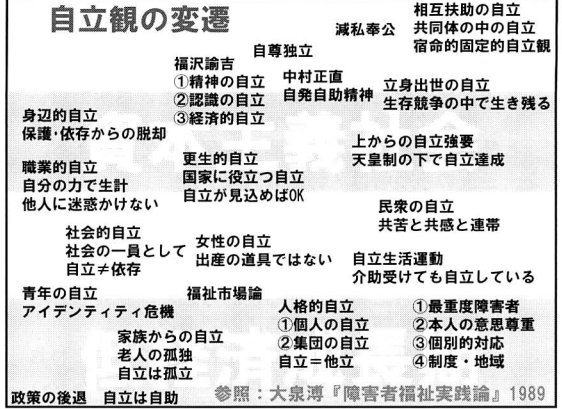
続・ろう史研究の対象を考える

三人のろう先輩への敬意は自己目標・生きる力だった。普遍性と特殊性の統一的な把握(大泉博『障害者福祉実践論』)によれば先輩への敬意は本人の主体的達成の意欲またはきっかけとらえる 音声中心社会というろう者の外的条件整備の改善を必要としながらもその働きかけの主体としての内的条件の充実が不可欠 人間らしく自立していくことは固定した特定の状態ではない(大泉) 今日さまざまな自立の概念の中で共通していることは

- ①自らの意思と力でやること
- ②自らの力の限界を知り必要な支援を求めること
- ③それらの課題の達成に必要な物質的条件を明らかにすること

大泉氏はこの視角から人間的自立という概念を1989年に発表した。その自立観の変遷を、ろう史研究に活かせるのか

自立観の変遷



自立観の変遷からわかっていくこと

あわれみや保護の対象→施す側の恣意に左右
 村落等共同体で扶助→共同体崩壊で放出
 競争に生き残ること→重度障害者の除外
 何らかに役立つこと→不資格者
 自分の周りのことは自分でやる→依存の敵視
 社会的自立が困難→障害者の社会的孤立をまねいている制度や社会そのものの自立を要求
 人格的自立→本人の意思や選択の尊重
 自立は他立→自立と依存の違いと共通点
 人間的自立の概念をろう者の自立論に応用させる



ろう者の自立論の私案

聾教育はろう者に身辺的自立としての日本語を、経済的自立としての職業技術をめざしていた。そうすれば、ろう者は社会に出て自立派に社会的自立ができる。この思いが130年間つづいてきた。

しかし、ろう者の多くの実態や現実
 「社会的自立が思うようにうまくいかぬ」
 「社会がこんなにも厳しいとは知らなかった」
 「学校では教えてくれない情報が多い」

低い評価を受けての挫折感
 強いられる理由なき忍耐
 自分を見失い、おちいる自信喪失

ろう者の仲間や信頼できる人々

必要な情報を得る
 臨機応変の生活技術
 主体的意欲と自立

一度むける、アイデンティティ確立、天命を知る
 人間的自立

まとめ③

1. ~熱くなる胸の思い~が果たす役割
三人に代表される先輩の活躍への熱くなる胸の思いは、同時に音声中心社会で困難をかかえ、その改善と発展を求めるろう者の夢・希望としてとらえる。
2. 三人のろう者は「特別な人々」か
(○)彼は特別な困難をもつ普通の市民か
()彼は他と異なったニーズをもつ特別な市民か
各時代のろう者をろう者の眼で見る伊藤政雄氏のろう史観をさらに発展させるということは、社会とろう者の関係を明らかにすることである。
3. ろう史研究は、先輩たちの足跡をさぐる中でわれわれにろう者の誇りを共有させてくれると考える。



おわりに

~これまでの話のまとめとして~

- ①手話の歴史.....何をもって手話と言うか
手話はろう者の集団から生まれたものとする。
- ②口話教育の歴史...聾教育の目的は何か
口話教育は人間的自立を目標にしているとする。
- ③ろう者の歴史... ろう者とはどのような人が
ろう史研究がわれわれの生きる力の拠点になる。



さまざまなろう史研究のスタイル

- ・「発掘型歴史学」...例・手話の始まりで述べたろう者集団の存在、刀剣研究、「つんぼ平」地名由来調査など
- ・「語り部型歴史学」...例・軍艦島とろう炭坑夫、ろう被爆者体験記録、○△ろうあ協会の歴史など
- ・「理論型歴史学」...例・四段階説(親睦中心運動→お願い運動→要求運動→連帯運動)、手話通訳者の三元構造説(行政→通訳者→ろう者)、ろう者の誇り理論など
- ・「検証型歴史学」...例・某ホームページ→ろう者は残疾であり、痲疾でもあり、篤疾でもあった。→事実の確認
- ・「実践型歴史学」...例・歴史の中から学び現実の実践に活かしていくスタイル
- ・「その他」... コレクション・ブログ・教材研究・旅行など

わたしにとって「ろう史」を学ぶ理由

- 例1 情報提供施設設立の取り組み
ケース1: 京都盲啞慈善会(京都聾口話学園)
この施設がろうあセンターへ→仏教施設から公立施設へ
ケース2: イギリスのろうあセンター
多くは教会施設から生まれている→宗教と施設の関係
わかったこと: ①初期に資金、資産が既にあるとスタートしやすい
②すべて同じ方法ではなく、固有の地での固有の方法
課題: ①資金も資産もない岐阜県でどう取り組むか
②平成2年に竹筒募金の開始、準備対策委員会の設立
- 例2 全日本ろうあ連盟の名称問題
イギリスろうあ連盟BDDA(デフ&ダム)からイギリスろう者連盟BDAへ(拙稿「英国ろう者連盟小史」)→日本のとらえ方の違い
- 例3 現在、インクルージョン問題
聾学校の特別支援学校→さらには普通の学校との統合へ
国の●×委員会のメンバーに聾教育・障害者教育関係者の不在
いま直面している課題に際し、ろう史研究を活用したい



ろう史研究はわたしの自立と発達

伊藤政雄氏の『歴史の中のろうあ者』をベースにさらに発掘、事例収集、理論化、検証等が必要。

- ①生き生きとした直感→②収集・考察・推理→
③実践的検証→①へ(繰り返し)→研究の発展
- ①生き生きとした直感... 変だな?と問題を嗅ぎ取る
臭覚 インスピレーション 第六感
 - ②収集・考察・推理... 狭く、広く 比較と関連の発見
 - ③実践的検証... ②で推理したことを実践にうつす。
再びそこに変だな?の発見→①への繰り返し
- ご清聴ありがとうございました



参考文献

- ・伊藤政雄『歴史の中のろうあ者』近代出版
- ・イリン『人間の歴史』角川文庫
- ・伊藤葵一『言わぬ花日本聾啞秘史』教育研究会
- ・渡邊平之輔編『古河氏盲啞教育法』文部省
- ・山本おさむ『わが指のオーケストラ』秋田書店
- ・ろう教育科学会『西川はま子集』モノグラフNo.4
- ・『聾座頭』成田山仏教図書館提供
- ・大泉溥『障害者福祉実践論』ミネルヴァ書房
- ・小畑修一『我が国における聴覚障害者の言語教育の歴史』リハビリテーション研究」50号